

新「バリアフリーなお出かけマップ」ができました!

バリアフリー2001

市民活動サポートニュース KAGAYAKI vol.58 に、掲載させていただきました「バリアフリーなお出かけマップ」が、このほど完成いたしました。現在の日本は、バリアフリー新法によって一律の基準で、まちづくりが進められ、改善されつつあります。その中であっても、視覚に障がいを持つ方が一人で外に出ることは、勇気のいることだと思います。また総合支援法によって、ガイドヘルパーの方との外出ができるようになる中で、現地や交通機関の情報収集も大事かと考えます。この「バリアフリーなお出かけマップ」は、福生市内の公共施設や交通機関の機能がどのようになっているのか、事前に知る手段の一つとして、使用していただければと思います。



外に出るときの道案内に

輝き市民サポートセンターに置いてあります。

* 関心をお持ちの方は、下記の連絡先までご連絡ください。

代表 高崎賢啓 連絡先 090-5331-8949

E-mail: yoshi_t@tt.rim.or.jp

<センターからのお知らせ>

お詫びと訂正のお願い

2月1日発行のKAGAYAKI vol.61、中面3ページ登録団体からのメッセージ(10周年)の記事において登録No.61の団体「花柳千衛里会」のお名前を誤って記載しました。お詫びするとともにここに訂正させていただきます。

誤=花柳千衛会 正=花柳千衛里会

代表者変更・連絡担当者変更について

新年度になり、代表者や連絡担当者等の変更はございませんか?変更された時は速やかにお知らせください。誤りを避けるため口頭ではなく「会議室登録変更届」での提出をお願いします。今年度は登録団体すべてに登録更新の確認書類をお送りする予定です。更新を忘れずをお願いします!

センター事業について

平成28年度のセンター事業は、市民活動支援講座、市民活動トークなど各種の事業を企画しています。前号で登録団体の皆様に10年の節目の記事をたくさんいただきました。熱い言葉に答えて、今年度はさらに各団体ごとの「プレゼンテーション」を行えればと思います。ご意見やご要望をお待ちしております。

交流スペース利用のご案内

小人数での打合せや情報交換など、自由な交流の場所としてご利用ください。予約は不要ですので、席が空いていれば随時ご利用いただけます。

他市町村から届く情報誌や、市民活動に関する書籍、近隣市町村の催し物や講座などいろいろな種類の情報も閲覧できます。

会議室利用登録のご案内

センターの会議室は、福生市内を拠点に市民活動を行っている団体及び、これから活動を行うおとす方がご利用できます。

団体の打合せや研修などのほか、社会貢献活動の目的に沿った内容でご利用いただけます。



あらかじめ会議室利用の登録が必要ですので、所定の手続きをお願いします。「会議室利用登録書」はセンターにあります。当センターホームページからもダウンロードできます。提出された書類に基づき、団体の目的や活動内容等について市協働推進課の審査があります。

特に「活動内容」や「団体のPR」欄については、詳しくご記入ください。皆様の更なるご利用をお待ちしております。

登録団体の皆さん、活動の紹介・宣伝を市民活動サポートニュース KAGAYAKI にお寄せください。原稿の締め切りは奇数月の10日です。

スタッフの語り

つれづれのまに

桜の春に入り、暑い夏はクーラーの効いた部屋で快適に過ごし、秋は扶桑会館で悩んだ。年末にこの場所に戻って、新年はあっという間に過ぎ、また春がくる。少し成長したか?

市民活動サポートニュース KAGAYAKI Vol.62

平成28年4月1日発行

発行:福生市輝き市民サポートセンター
〒197-0011東京都福生市福生1014番地10(福生市プラザギャラリー4階)
TEL&FAX:042-551-0166
URL: http://kagayaki.city.fussa.tokyo.jp/

<報告>市民活動トーク

実施日 3月5日(土)

居場所づくりの始め方 ~「こまじいのうち」に学ぶ~



福生市、近隣市町村から、35名の参加者に集まっていた「居場所づくり」の講座を開催しました。講座開催に至った決め手は居場所づくりという言葉と、このテーマへの思いでした。

「こまじいのうち」は、文京区社会福祉協議会の駒込地区担当コーディネーターが中心となり、駒込地区町会連合会、民生委員、児童青少年委員、更生保護女性会、傾聴ボランティアなど、最初にも多くの人を取り込んだことが成功の要因だと話されました。

初めのころは各町会長と「協力する」「協力しない」というもめごとや協賛金をめぐる苦情、プログラム(名称はどうするか?利用料はとるか?地区外からも受け入れるか?一番何を大切にしていこうか?)の立ち上げ、各イベントの割り振りなど苦労もあったが、実行委員会で検討し、多くの無償ボランティアの方々の協力で運営してきたことでした。

また若いお母さんと子どもたちが来て、新たなグループが立ち上がったことは、「こまじいのうち」の本来の趣旨に沿った成果であると講師から説明がありました。

後半、講座の参加者から集まった



講師:三縄 毅氏(文京区勤労者共済会事務局長)

質問アンケートに対し、地域との関係、町会という集団、社会福祉協議会・行政との「ゆるーい」つながり、運営費の使い道など、具体的な話がありました。今後の課題として、空き家の提供者、担当コーディネーターの異動、地域の中で運営や会計等の中心的な役割を担う人不足などをあげました。

参加者からは「立ち上げにかかわられた方から、具体的に思いを聞くことができ、同じような思い、関心を持った方がたくさんいるとわかり、心強くわくわくした。」「各世代の人が集まって、ボランティアに、生きがいになって



いる活動に、私もやる気になりました。」「居場所を始めていたが、特定の人のおしゃべりの場となってしまう、いろんな方に出入りしてもらうことの難しさを感じていたから」等の意見が寄せられました。2時間に及んだ講座で、空き家の有効活用から始まった地域づくりの推進、地域の繋がりの強さ、人々のまちづくりへの力を感じることができました。

講師は今回の講座の参加者が、自宅カフェなど居場所づくりへの関心が高く、具体的な問題意識を持っていることを評価していました。